

家族の物語をつむぐ親子のための 健康手帳・母子手帳

私は助産師という仕事に自分が就くということは想像だにしていなかった。

小学校の頃、母の持っていた母子手帳にとっても興味がわいたことを今も覚えています。もしかするとその頃から助産師という仕事に興味を持ち始めていたのかもしれない。

実は

母子手帳とは母子栄養と感染症対策が急務であった戦争直後の日本において1948年に世界ではじめて妊娠・出産・子どもの健康の記録を一冊にまとめ、母親が家庭で保管できる形の母子手帳が作られました。

助産師という仕事をしていて今も実は母子手帳に興味があります。お母様から預かる母子手帳は日本全国それぞれ違うんです。もちろん自由にお母様が記録している場所もあるので思い思いに書かれています。

母子手帳を拝見せてもらおうと少したけサポートのヒントが書かれていることを見つけることがあります。

『最初に困ったことが起こったのはいつですか？』『幼児期はどんな様子でしたか？』『歩き出したのはいつですか？』『言葉はできていますか？』様々な質問がありますが、お互いに気持ちをどう伝えあったらいいのか探り合う時があります。伝わりにくさに不安を感じたりもしますし、医療の場はいつも緊張感が張りつめていたりもしますよね。

そんな時、母子手帳に一言書き留めていてくれたら分かり合えることもあります。サポートブックの役割をしています。

『誰ひとり取り残さない』を実現するために、母子手帳を有効利用し、地域の実情や家族の様子、母子のニーズに応じたサポートを支援し、母子手帳を通じてつながりあっていきたいとおもっています。



子どものSOS・外来で気になる子・ その子育てにアドバイス

小児科外来で気になる子どもをよく見ると、困っていることを表現できずいたり、子どもの心のメッセージを理解できずに親が悩んでいたり、医療スタッフが支援したくても手立が思い浮かばなかったりすることがあります。子どもは不安・悲しみなどの様々な感情を非言語的な表現で伝えてくるので身体症状で伝えてくる子どもの心のSOSを読みとらなければなりません。

頭痛や倦怠感などの不定愁訴で心身症を疑うと、症状に応じた検査・投薬を行うと同時に子どもの困りごとについても保護者と話し合いをしています。

気になる子どもの行動や心身症の対応には、家族の役割が大きく親子関係の観察が必要です。

困っている子どもは赤ちゃん返りをして親に甘えることがあり親にくっついてくなどの行動を親が受け入れなければ症状が落ち着いてきたりします。子どもへの声かけが大事だったりもします。



良好な親子関係づくり(子どもと話す・愛情を表現するなど)を基本に好ましくない行動を叱るよりも、好ましくない行動に注目し、実行可能なルールを子どもと話し、できたら褒めると効果的です。



子どものこころのSOSを早期発見・早期解決で前向きに子育てができるように短い診察時間ではありますが、アドバイスしています。



小学校になる前の準備！！

・MR2期予防接種

年長さんのみなさーん、MRの予防接種はお済みですかー？

令和2年3月30日が最終無料日の予防注射です。ご確認ください。

<2回目MRワクチン>

◎対象・・・今年、令和2年4月に小学校に入学するお子様



※1回接種では10年過ぎると抗体が消退する人がいます。

※予防接種を接種する際は、必ず問診票ご記入のうえ
母子手帳をお持ちください。

